

## 2024年5月～2027年3月に本院の整形外科で、頚髄症の診断を受け、手術目的で入院し、リハビリテーションを受けた方へ

研究 頚髄症における手指巧緻動作障害と筋萎縮の関連について の実施について

### 1. 本研究の目的および方法

頚髄症とは、加齢や変性により脊柱管が狭くなり手足のしびれや手指の動かしづらさ(巧緻動作障害)、歩きづらさなどが起こる病気です。手指の動かしづらさはミエロパチーハンドと呼ばれ、手の細かな動作(お箸を持つ、字を書く、ボタンをかける等)がしづらくなります。手指の筋肉が痩せることもありますが、筋肉の痩せや筋力と手指の動かしづらさの関係はまだ明らかになっていません。本研究の目的は、握力、つまむ力や細かい動作、超音波画像診断装置による筋肉の厚さなどの値や細かい作業や日常生活の状況、それらの関連を解析することで、リハビリテーションの評価・訓練方法を明確化していくことです。

本研究の対象は、2024年5月から2027年3月に当院整形外科にて頚椎症性脊髄症、後縦靭帯骨化症、頚椎椎間板ヘルニアの診断を受け、手術目的で入院しリハビリテーションを実施した方です。

方法は、当院電子カルテから得られる情報(診療記録・リハビリテーション記録・画像・検査結果など)を調査します。予定症例数は50例です。

なお、この研究は徳島大学病院生命科学・医学系研究倫理審査委員会で倫理的観点および科学的観点からその妥当性についての審査を受け、研究機関の長の許可を得て実施しています。

### 2. 研究に用いる試料・情報の項目および保管方法について

本研究に用いられる情報は、診断名、手術などの治療歴、上肢機能や日常生活状況などです。

収集したデータは完全に匿名化し、リハビリテーション部教授 松浦哲也が管理します。研究終了後3年間はリハビリテーション部の施錠できる書庫にて保管し、保管期間終了後は完全に破棄し、本研究以外には使用しません。

### 3. 研究結果の公表について

本研究の結果は学会や雑誌等で公表することがありますが、公表に際しては特定の研究対象者を識別できないように措置を行った上で取り扱います。

### 4. 研究資金および利益相反管理について

本研究における特別な研究資金はありません。本研究は、本院の研究費のみを使用して実施されます。本研究の利害関係については、臨床研究利益相反審査委員会の審査を受け、承認を得ております。

### 5. 本研究への参加を拒否する場合

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者

さんに不利益が生じることはありません。

## 6. 研究責任者および連絡(問合せ)先

【研究機関】 徳島大学病院 リハビリテーション部

【研究責任者】徳島大学病院リハビリテーション部 教授 松浦哲也

### 【連絡先】

徳島大学病院 リハビリテーション部 作業療法士 中野渡 友香

電話番号 088-633-9313

本研究への参加に同意しない場合は、連絡先までご連絡下さい。